

事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和6年3月26日

事業所名 仙台市大野田たんぼぼホーム

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・朝の支度と運動あそびの場所を区切るなど活動に合わせて広さを工夫している ・人数や活動によってパーテーションを使い区切って使用している 	
	② 職員の配置数は適切であるか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・前日に打ち合わせし職員減でも支障のないように工夫した ・職員の足りない日は他のクラスにヘルプを要請し配置している（複数回答） 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が十分でない日は、安全や療育の質を確保できる活動内容に変更するなど工夫しながら行っていく ・職員に欠員が出た場合は、事務局と連絡を取りあい、速やかに補充していく
	③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		<ul style="list-style-type: none"> ・各クラスの状況に合わせた構造化を行い、子どもにとってわかりやすい環境を心がけている ・子どもの状態は変わるため、都度見直しを行い、子どもそれぞれに合わせた構造化を目指して改善している ・研修で多角的に構造化の視点を学び、クラスにおろすことができた。クラス内で常に話し合いながら環境設定してきた 	<ul style="list-style-type: none"> ・設定活動や支度等の場面では構造化を意識することができていたので、自由遊びやその他の場面でも構造化の視点を持ち、更に良い環境を工夫していきたい ・当日の出席人数に合わせた環境設定ができるよう、複数のプランを考えておくなど、臨機応変に対応できるようにしていく ・研修などを取り入れ、構造化の工夫を高められるようにしていく
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		<ul style="list-style-type: none"> ・エアコンを修理したことで適度に温度調整ができた ・寒さや転倒時の危険回避のためクッションマットやカーペットを使用している ・気づいたときにすぐに清掃できるよう道具を常備していた ・見て刺激になってしまうものは取り除いたり、パーテーション等で仕切り個の遊びに集中できる時間を設けている 	
	⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に広く職員が参画しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・回覧や全体会議で周知、話し合いされた ・日々の振り返りの中で情報を共有し、話し合いの時間を設けている 	
	⑥ 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		<ul style="list-style-type: none"> ・改善点は全体でも共有しクラス間で話し合ってきた ・すぐに対応することができた 	
	⑦ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページに記載されオープンにされている 	

	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○	<ul style="list-style-type: none"> ・講師に学ぶ研修だけでなく他園と合同の研修機会もあった ・オンラインの研修などにも参加し現状の振り返りや新たな学びの機会にしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・法人全体で課題を共有し実践に活かせる研修を充実させる ・園外での研修にも積極的に参加し、園内において互いの向上をはかっていく。 ・園内研修を充実させていく。
	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ツールとしてアセスメントシートを使用することが定着し、複数の視点から行うことができた 	<ul style="list-style-type: none"> ・児発管を中心に多職種が連携し多面的に分析作成することを定着させていき、客観的にとらえられるようにしていく
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ・たんぼぼホーム独自のアセスメントシートを使用している 	
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援（本人支援及び移行支援）」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な支援内容を提案できた。保護者に伝わりやすいようわかりやすい記述にも心がけた 	
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○	<ul style="list-style-type: none"> ・集団場面だけでなく個別活動にも取り入れている（複数回答） 	
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	○	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス会議を行い、計画に対する目標を共有している ・前日にデイリープログラムを確認し、改善が必要な場合は職員で意見を出し合っている 	
適切な支援の提供	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○	<ul style="list-style-type: none"> ・あえて固定化するものとそうでないものをきちんと区別してきた ・新しい活動を学んで取り入れるようにした ・「前回このような姿だったから」「もう一度提示してみたい」等職員間で工夫できた 	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修を充実させ、新しい活動も取り入れるようにしていく
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○	<ul style="list-style-type: none"> ・個別に合ったものと集団ではどのような支援があったらできるか考えている ・特に年度の後半からは、次の進路を見据えての支援計画を立てることができた 	
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス内で漏れの無いようにクラスノートで共有し記録した ・前日に打ち合わせ、当日は変更点等を確認するという流れが定着した（複数回答） ・チームでの連携を取りやすいよう配慮しながら確認している 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体でも共有できるよう、ノートだけでなくホワイトボードも上手く活用していく ・確認したが、意図がうまく伝わらず共有できていないこともあるため、チームで連携を取りやすいように工夫を重ねていく
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスの反省の持ち方を可視化し、特記や職員の中で対応等に困ったこと等を重点的に行った ・活動内容の反省、母との振り返りの内容を共有している ・全体でも共有できる時間を設けた 	<ul style="list-style-type: none"> ・内容を吟味し効率よく行えるようにする

	⑱	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスノートを作成し、聞き取ったことを共有し振り返りができるようにしている ・狙いに合わせての記録を取りたい。またそこから狙いが妥当だったのか検討した ・日誌や記録用紙を見直し、記録を取りやすくした 	
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		・児発管が全体を把握し支援会議をタイムリーに行えるようにしていく
関係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じてタイムリーに連携をはかることができた ・必要に応じて区やアール、地域関係者と情報共有し互いの役割を確認している 	
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○	・定期的に連絡を取り合い、連携をはかってきた	・同行や同席が困難な場合は保護者から聞き取りして支援内容を確認していく
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○	<ul style="list-style-type: none"> ・指示書をもっているので必要な場合には連絡を取ることが出来る体制がある ・リハの内容を共有するノートを作成し、連携を取りながら療育に活かしている 	
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○	・移行支援シートを作成し引継ぎを行っている。また、地域相談を軸とした関わりをしている	
	㉖	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○	・センター合同の研修を行っている	・次年度も市連協での研修を計画している
	㉗	保育所や認定こども園、幼稚園との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	○	・夏まつりに隣接する保育園児を招待したり、園庭に遊びに行かせてもらったりした	・隣接するこども園の都合で計画が実行できなかったが、次年度も早めに企画し実行していきたい
	㉘	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	○	・地域相談員を中心に行っている	
	㉙	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡ノートや送迎時、必要に応じて療育時間後にも伝え合う ・発達検査の振り返り、自由時間などの普段の会話、面談、ミーティング等を通して行っている 	
	㉚	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	○		・勉強会資料は常にブラッシュアップさせていく

保護者への説明責任等	③②	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
	③③	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			
	③④	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		<ul style="list-style-type: none"> ・日々の聞き取りやノート等を活用し丁寧な対応をするようにしている ・担任だけでなく園長、主任にも報告し、必要に応じて同席での面談等も行ってきた 	
	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークやコーヒータイムの時間を設けている 	
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		<ul style="list-style-type: none"> ・職員間で共有し対応できるように体制をとっている ・迅速に行うことができた ・様々な事情にできる限り応えられるよう体制を整え、沢山対応してきた 	
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	○			
	③⑨	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の様子に合わせて行った 	
	④①	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		<ul style="list-style-type: none"> ・隣接するこども園の児童を招待した 	<ul style="list-style-type: none"> ・招待すること（交流の含め）を前提に企画し実行できるように考えていく
	非常時等の	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		
④②		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			
④③		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○			
④④		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がなされているか	△		<ul style="list-style-type: none"> ・対象児がいる時は指示書をもっている ・感触あそびなどで誤飲のないように注意を払っている 	

対応	④5	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		・分析し再発防止につとめていく
	④6	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		・虐待防止委員会を月1回開催し対応について全体で考えている
	④7	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・部屋の鍵についてはお母さん方に説明している ・チャイルドシートの利用など安全上やむを得ない状況が発生したときはその都度追記している

※この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。